

日本畜産学会・日本学術会議公開講演会

平成 23 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費

持続的な食糧生産と食の安全を支える新たな動物生産科学の展開



新たな科学でつくる 安全で安心な 動物性タンパク

平成 24 年 3 月 30 日 (金) 13:00~15:30

名古屋大学 IB 電子情報館 4 階大講義室
(地下鉄名城線 名古屋大学駅 出口 3 すぐ)

■ 最新のゲノム解析から探る和牛肉質のルーツ
河野友宏 (東京農業大学応用生物科学部教授)

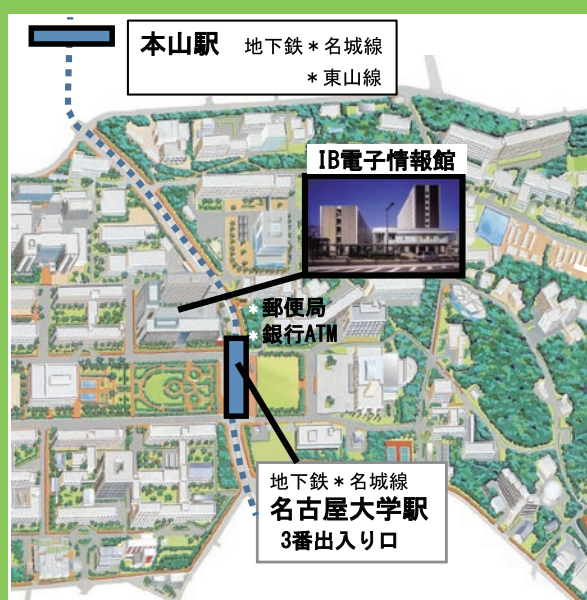
■ あたらしい技術で家畜をつくる
加藤容子 (近畿大学農学部教授)

■ 食の安全と安心：畜産品を中心として
吉川泰弘 (北里大学獣医学部教授、東京大学名誉教授)

司会

藤原淳子 (元 C B C アナウンサー、愛知大学短期大学部非常勤講師)

どんな国でも豊かになればなるほど畜産物を大量に消費するようになります。つまり畜産物は人間の食生活の豊かさの象徴ともいえます。日本は食料の 60% を海外に依存していますが、肉や乳、卵などの畜産物にいたっては、完全な自給率はたった 16%、あとの 84% は輸入した飼料で国内で生産されるか、あるいは輸入された畜産物です。さらに BSE 問題が起こり、安全で安心な畜産物を求める声は大きくなりました。このような問題を解決し、われわれが現在受けている食生活の豊かさを維持するために、どのような努力が行われているか？この講演会では、最新の科学でつくる動物性タンパクの未来をお見せします。



キャンパスマップ

東山キャンパスへのアクセス



主催：日本畜産学会、日本学術会議

後援：愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

問合せ先：名古屋大学大学院生命農学研究科 日本畜産学会第 115 回大会事務局 jsas115@agr.nagoya-u.ac.jp